

令和 5 年 5 月 16 日  
(総合内科・臨床感染症学講座)

福島県政記者クラブ加盟社 各位

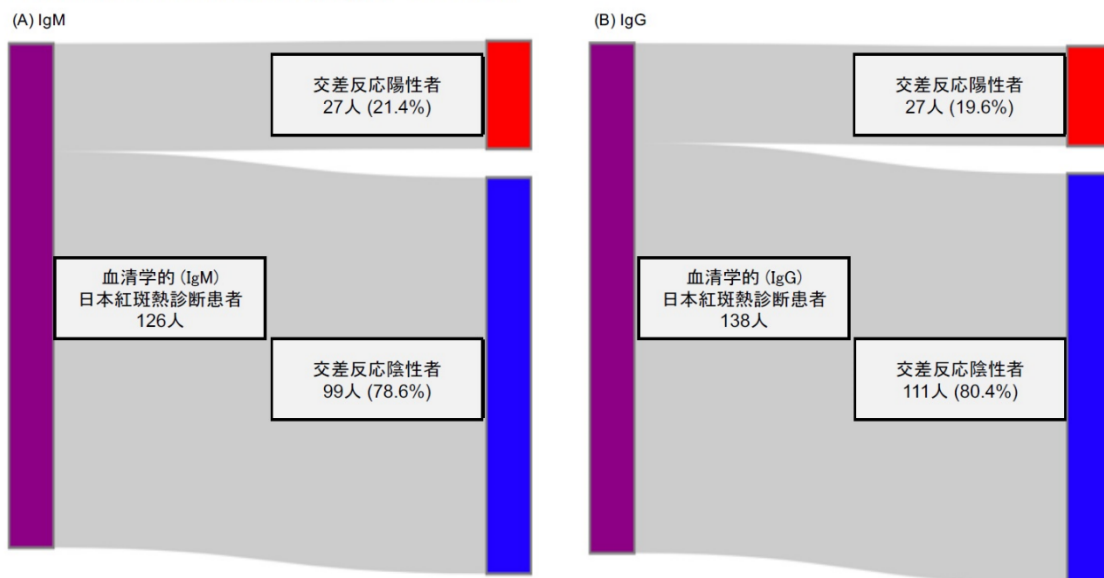
## 日本における紅斑熱群リケッチアと発疹チフス群リケッチア間の血清学的交差反応性について

公立大学法人福島県立医科大学 総合内科助手、大学院医学研究科 臨床疫学分野 大学院生の會田哲朗らは、*Rickettsia japonica* を起因菌とする日本紅斑熱と診断された患者において、血清学的診断検査で発疹熱の起因菌である *Rickettsia typhi* に対する交差反応を認める割合が約 20% であり、さらにそれぞれの抗体価を比較することで日本紅斑熱と発疹熱を鑑別できる可能性を示しました。研究成果は、International Journal of Infectious Diseases 誌電子版に 2023 年 3 月 11 日付で掲載されました。

日本紅斑熱と発疹熱は節足動物（ダニ、ノミ）を介した、リケッチアという細菌による感染症です。日本紅斑熱は紅斑熱群リケッチアである *R. japonica*、発疹熱は発疹チフス群リケッチアである *R. typhi* が起因菌であり前者は感染症法第 4 類に指定されており、後者は日本でも散発的に報告されています。現在いずれのリケッチア症においても血清抗体価測定が標準的診断方法ですが、交差反応と思われる両病原体に対する抗体価上昇がみられることがあり、誤診される可能性があります。さらに、リケッチア症の疫学調査上でもこの交差反応がリケッチア症の分類上の問題になることが指摘されています。

本研究では、日本紅斑熱と診断された患者 145 名を対象に、*R. typhi* に対する交差反応の頻度、それぞれのリケッチアに対する抗体価比較の診断への意義を調べました。交差反応は IgM で 21.4%、IgG で 19.6% の頻度で認められました。ただし、急性期、回復期の血清抗体価を比較することで交差反応を認めた 42 人中 8 人を除いては日本紅斑熱と発疹熱を鑑別することが可能であることも示されました。

日本紅斑熱患者における *Rickettsia typhi* への交差反応



Aita T, Sando E, Katoh S, Hamaguchi S, Fujita H, Kurita N. Serological cross-reactivity between spotted fever and typhus groups of rickettsia infection in Japan. Int J Infect Dis. 2023 May;130:178–81.



公立大学法人

福島県立医科大学

〒960-1295

福島県福島市光が丘 1 番地

TEL:024-547-1111 (代表)

本研究の知見は、リケッチア症を診療する可能性のある臨床医が患者の症状に加えて、標準的診断方法である抗体検査を適切に解釈し診断に結びつけることに貢献します。リケッチア感染症診療の質を向上するための一助になればと思い、研究を実施しました。

●お問い合わせ先

<研究に関すること>

公立大学法人福島県立医科大学 総合内科・臨床感染症学講座 教授 山藤 栄一郎

電話 024-547-1933

<広報に関すること>

公立大学法人福島県立医科大学 医療研究推進課 課長 菊地 芳昇

電話 024-547-1825